

# 「サステナブル近江八幡 2017」について

平成 30 年 3 月

平成 29 年 3 月、「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、近江八幡市は、全国に先駆け、自治体レベルで SDGs に取り組むことを宣言し、本部会議にて自治体レベルでの取組について検討してきました。

この度、昨年 8 月に公表した「サステナブル近江八幡 2017」（平成 29 年度事業）について、各部局において、事業ごとに振り返りを実施しました。

その概要は、以下のとおりです。

## ○ほぼ全ての事業が SDGs の達成に貢献している

平成 29 年度の本市における SDGs の達成に向けた取組について、全国に先駆けて総合計画の策定段階から SDGs の理念を盛り込んだ「近江八幡市第 1 次総合計画策定事業」をはじめ、78 事業のうち 77 事業（99%）が、「ゴールの達成に貢献している」となっており、ほぼ全ての事業が SDGs の達成に貢献しているという結果となりました。

## ○今年度に取り組んだ目標の最多は、ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」

それぞれのゴール（目標）に該当している事業数について、最も多いのはゴール 11 の「住み続けられるまちづくりを」で 32 事業となっています。

続いて、ゴール 3 の「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」（19 事業）、ゴール 17 の「パートナーシップで目標を達成しよう」（14 事業）の順となっています。

【ゴール毎の事業数一覧表】

ゴール									
事業数	2	3	19	11	4	6	7	3	2
ゴール									
事業数	4	32	5	6	4	5	3	14	

また、各事業について、明確なターゲットを示している割合は、全体の 48%となりました。17 のゴールからさらに踏み込んだ 169 のターゲットを意識した取組がみられました。

**○継続事業については、今回の振返りを踏まえた取組が必要**

78 事業のうち、来年度以降も継続を予定している事業は 76 であり、ほぼ全ての事業が継続を予定しています。

今回の振返りでは、事業ごとに「SDGs の目標達成に向けた今後の取組について」の方向性も確認しました。今後は、SDGs のゴール、ターゲットを活用し、市民の QOL（生活の質）や幸福度の現状把握・向上に向けた効果的な取組を推進する必要があります。